

**1. 名称 川根本町若者交流センター奥流(おうる)** ※下記は奥流(おうる)の意味

- (1)奥大井の川の流れのままに
  - (2)奥大井に向かって、若者が流れるように集うように
  - (3)カヌーなど、舟をこぐときのオール(パドル)のように、若者が心ひとつにオールをこぎながら切磋琢磨する場になるように
  - (4)オール=ALL(みんな集まれ~!)
- 名称の名付親は、神谷さつきさん(田代)です。

**2. 設計監理業務委託先**

▶業者名 (株)塚本設計 代表取締役 塚本章博(島田市) ▶契約額12,758,040円(税込)

**3. 本体工事受注先**

- ▶業者名 大河原・富田特定建設工事共同企業体 ※富田は、川根本町の(株)富田工務店 代表者 大河原建設(株) 代表取締役社長 朝倉純夫(島田市)
- ▶工事請負費 契約額208,440,000円  
※財源は、主として合併特例事業債(全体事業費の95%を借り入れることができ、借入した返済額の70%が交付税措置されます。設計監理業務委託費も含まれます。)
- ▶工期 平成27年10月22日から平成28年3月18日まで

**4. 利用方法**

- ◎町内外の若者同士の交流事業(交流スペース)  
(例)▷小、中、高校生同士の交流 ▷高校や大学の合宿の受け入れ(地元の若者等との交流)  
▷大学生等と地元の皆さんとの文化交流 など
- ◎川根高校に入学する「川根留学生」と、町内の小・中・高校で教育実習を行う「教育実習生」の宿泊施設(個室)

**5. 施設概要**

- ◎軽量鉄骨造2階建て ◎建築面積約420㎡ ◎床面積約800㎡(1階 約400㎡、2階 約400㎡)
- 宿泊施設(個室)1部屋あたり約6.6㎡(約4畳)  
男子(1階)17人、女子(2階)18人 合計35人  
個室使用料 1か月につき40,000円。1か月の使用が20日未満の場合には、1日2,000円(いずれも朝食・夕食の食事料2食を含む)
- ▷個室は、「川根留学生」と「教育実習生」が使用できます。  
▷川根高校に入学する「川根留学生」とは、本川根・中川根・川根中学校を卒業した者以外の者で、教育委員会が認めた者です。これは、川根高校の存続のため、川根高校に入学する生徒数を確保したいということで2年程前から川根地域外の「川根留学生」を受け入れていますが、現在県内各地から12名が入学し、勉強や部活動に励んでいます。今後も、年間10名程度の「川根留学生」に入学していただくことを目指していますが、この交流センターはその生徒の受け入れのための施設でもあり、地元の高校生等との交流も積極的に進めていきたいと考えています。  
▷また「教育実習生」とは、町内の小学校・中学校・川根高校で教育実習を行う者で、教育委員会が認めた者ですが、将来、この川根本町で教師として活躍してくれることも期待するものです。

■交流スペース(集会等)

- 1階 多目的室 広さ31.88㎡(約20畳)
- 2階 ミーティングルーム1 広さ36.43㎡(約22畳・和室)
- ミーティングルーム2 広さ26.49㎡(約16畳・簡易畳可)
- 学習・演習室 広さ26.49㎡(約16畳・簡易畳可)

※交流スペースでの宿泊可能人数

- 男子(1階) 20人程度(多目的室におけるの集団宿泊の場合)
- 女子(2階) 20人程度(和室におけるの集団宿泊の場合)
- (この他、状況に応じてミーティングルーム2、学習・演習室にも宿泊可能)

■施設使用料

- 多目的室・ミーティングルーム1・ミーティングルーム2・学習演習室とも、1日につき3,000円(冷暖房を使用する場合には1,000円を加算。減免規定も有り)
- 食事料(合宿等での使用者が希望する場合) 朝食350円 夕食450円

■食堂・厨房 1階に設置。40席程度。

■風呂・洗濯 1階・2階に、それぞれ男子用・女子用の風呂場と洗濯室を設置。

■その他 管理室での施設一括管理が可能で、就寝(消灯)時間以降は2階の女子の宿泊施設の入出口はロックされ、1階や交流スペースとの行き来は不可能となります。(緊急時は、ロックが自動解除される)



**6. 管理運営**

施設の管理運営は、業者への業務委託(施設管理業務・給食業務など)を予定しています。

**7. 期待される効果**

- ▶町外から多くの若者を受け入れることで、若者同士の交流のみならず、町民と交流する「場」として捉え、町の活性化を図っていきます。
- ▶川根留学生の継続的な受け入れにより「川根高校」の存続を図るとともに、川根高校を魅力ある学校にしていきます。
- ▶若者交流センターを軸とした施策展開により、町外からの若い子育て世代の移住定住促進につなげていきます。



エコツーリズム推進員。エコツーリズムの推進・周知拡大に奔走。川根本町エコツーリズムネットワークの事務局も務める。  
愛媛県出身。  
神東 美希さん

エコツーリズム推進員 神東美希の

# エコツアー日記

川根本町の魅力をPRする  
エコツーリズムネットワーク  
活動報告

問い合わせ 役場総合支所商工観光課内 かんとうみき 神東美希 ☎(58)7077

1月8日(日)、雨の降るなか「木の駅かわね」オープニングセレモニーが行われました。桑野山貯木場には約40台の軽トラが集結。その光景は圧巻でした。

**工**コツアーでは「木に触れ、木に親しむ」をテーマに「木木(モクモク)体験」を実施。小学生から70代の方まで20名強のお客様が参加してくださいました。まずは林業のプロの指導のもと、チェーンソーや斧、のこぎりを使って木を切る体験。初めてチェーンソーを持つという方もいらっしゃいましたが、皆さん果敢にチャレンジ!! 切った丸太や角材を喜んで持って帰っていました。

**午**後からは井川線・沢間駅から土本駅までの一区間のみ乗車。「井川線の列車はその昔、木材輸送に使われていたんだよ」という説明をするためです。土本駅で降

りて、名物・タコ杉参りを済ませ、民家でお茶を振る舞ってもらいました。ただの散策ではなく、川根の人の暮らしづくりが垣間見え、人の温かさを感じてもらえたのではないのでしょうか?

**町**内だけでなく町外の方が「木の駅かわね」の取り組みに関心を持ってくださっていること、本当に嬉しく思います。この日集まったいろんな人の姿を見ながら、「木の駅かわね」は単なる森づくり事業ではなく、「地域づくり事業」なのだと確信しました。

**山**主だけでなく、住民一人ひとりが地域の山や森に意識を向ける、足を運ぶ。山が負の遺産ではなく、宝物に見える。一人ではなく仲間である、仲間が増える。ガラ券を持って商店で買い物をする、商店の人がまたガラ券を使って別の店で買い物をする。エコツアー

を通じて大井川上流と中下流の住民の交流が生まれる。「木の駅」をきっかけに、いろんなことがグルグルと回り始めます。

「木の駅かわね」と「エコツーリズム」は一心同体。だって「川根本町を元気にしたい」という想いと目的は同じなのですから!!



林業家の指導を受けながらチェーンソーを扱う小学生。山仕事の大変さ、山男たちのたくましさを感じました。

川根のみきていが綴る「ブログ版」川根本町エコツアー日記もお楽しみに! <http://eco2kawane.eshizuoka.jp/>

## 高度情報基盤整備工事の完成報告

平成17年9月20日、川根本町の誕生以来、新町建設計画の主要プロジェクトとして位置付けられてきた「高度情報通信基盤」の主要整備工事が国・県の支援のもと、合併10周年を迎えた平成27年12月に完成しました。

平成26年8月の工事着手後、請負業者である京セラコミュニケーションシステム(株)、町内事業者をはじめ工事協力事業者の皆様、工事にご協力いただいた土地所有者の皆様、中部電力(株)、N.T.T.西日本(株)、大井川鐵道(株)などの電柱管理者の皆様、そして、工事期間中、ケーブル敷設における通行規制で多大なご迷惑をおかけした町民の皆様、多くの皆様方に支えられ、工事期間中無事故で完了させることができましたことに、厚くお礼申し上げます。

この工事の完成により、都市部や町内地域間での情報通信格差が解消され、合併の目標であった町内同じ環境のもと地域全体の発展と住民福祉の向上を図り、町が一つになってさらに発展していくことができます。

これからは、整備された環境を活かし、課題を抱えている分野での利活用を進めていく次のステージに入ります。医療、健康、福祉、教育、防災、産業振興等、それぞれの分野で町民生活向上のための事業をさらに進めていきます。

現在は、「全国瞬時警報システム(Jアラート)」との連携や戸別受信機・アンテナの撤去が残されております。すべての工事が無事完了するまで、今後とも引き続き、皆様のご理解、ご協力を重ねてお願いいたします。

川根本町長 鈴木敏夫

【問】企画課・広報情報室 ☎(56)2221